

水産庁

プレスリリース

平成20年4月14日
水産庁

第21次南極海鯨類捕獲調査船団(平成19年度)の入港について

第21次南極海鯨類捕獲調査(石川創団長(財団法人日本鯨類研究所))に従事した調査母船「日新丸」、目視専門船「第二共新丸」、「海幸丸」並びに目視採集船「第二勇新丸」、「第三勇新丸」、「勇新丸」が入港することとなったことから、下記のとおりお知らせします。

1. 調査船団の入港について

平成19年度の南極海鯨類捕獲調査(石川創団長(財団法人日本鯨類研究所))に従事した調査母船「日新丸」、目視専門船「第二共新丸」及び「海幸丸」並びに目視採集船「第二勇新丸」、「第三勇新丸」、「勇新丸」は、以下のとおり入港する予定である。

なお、入港後、調査中に発生した調査船団への妨害活動に関する捜査当局による調査等を実施することとなるため、入港式は行わない。また、報道関係者の立入りも禁止されることから、15日(火曜日)に調査団長、船長、水産庁等による共同記者レクを実施する予定である。

- (1) 調査母船: 日新丸(小川知之船長以下143名)
平成20年4月15日(火曜日)大井水産物埠頭
- (2) 目視専門船: 第二共新丸(小宮博幸船長以下22名)
平成20年4月16日(水曜日)大井水産物埠頭
海幸丸(新屋敷芳徳船長以下22名)
平成20年4月19日(土曜日)鹿児島谷山港
- (3) 目視採取船: 第二勇新丸(佐々木安昭船長以下18名)
平成20年4月15日(火曜日)豊海水産埠頭
第三勇新丸(三浦敏行船長以下18名)
平成20年4月15日(火曜日)豊海水産埠頭
勇新丸(竹下湖二船長以下18名)
平成20年4月15日(火曜日)下関

2. 調査の概要

- (1) 出港日: 平成19年11月18日(日曜日)山口県下関港出港
- (2) 調査海域: 南極海のIWC海区のうち第3区東側海域、第4区全域、及び第5区西側海域(南緯60度以南、東経35度~165度)
- (3) 捕獲頭数: クロミンククジラ551頭
- (4) 実施機関: 財団法人日本鯨類研究所
- (5) 本年の調査の成果

クロミンククジラの発見は、ほぼ同じ海域を調査した一昨年の結果(1,848群、4,917頭)と比較して少なかった。この原因として、ザトウクジラが調査海域に広く分布し、これまで優勢であったクロミンククジラが南側に偏在するという分布状況に加え、氷の変動が例年より複雑であり調査船が侵入できない水域に多くのクロミンククジラが入り込んでしまった可能性が高いと考えられる。

デビス海(東経89度~95度)では、氷縁部に形成された氷湖への進入に成功し、多数のクロミンククジラを確認した。また、捕獲調査の結果、この内部には資源の再生産に重要な役割をもつ妊娠雌個体が多く入り込んでいることが明らかになった。このことから、調査船が進入できなかった複雑な氷縁の中にも、多くのクロミンククジラが入り込んでいる可能性が高いと考えられる。

ナガスクジラは妨害による調査日数の不足に加え、発見数も少なかったため、捕獲の機会が得られなかった。

妨害活動回避のため、調査日数に不足が生じ、当初予定されていた5区東側海域(東経165度~175度)の調査が行えなかったほか、4区西側海域における目視採集船の調査活動が大幅に制限された。

長期間の妨害にもかかわらず、捕獲調査においてはクロミンククジラ551頭の標本が得られたほか、目視調査、海洋観測調査、餌生物調査等の結果は、捕獲した鯨体からの各種分析用標本とともに、南極海の鯨類資源や南極海生態系の継続的なモニタリングに貴重なデータをもたらした。餌生物調査では、計量魚探のデータ及びネットサンプリングの結果を、捕獲調査によって採集した鯨体の胃内容物と比較することで、南極海生態系の研究に大きな貢献が期待される。

[ページトップへ](#)

— お問い合わせ先 —

資源管理部遠洋課
担当者: 捕鯨班 高屋、増山
代表: 03-3502-8111(内線6724)
ダイヤルイン: 03-3502-2443
FAX: 03-3591-5824

[ページトップへ](#)

Copyright:2007 Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries

〒100-8907 東京都千代田区霞が関1-2-1 電話:03-3502-8111(代表)

水産庁